

九月の法座・行事

- 十日・同朋の会例会
大阪教区第七組
教應寺住職
建部 智宏 師
- 十二日・闍如上人御逮夜・常永代経
(午後二時)
- 十三日・闍如上人御命日
(午前八時)
- 二十四日・正信偈書写の会
(午前十時)
- ・秋季彼岸会並総永代経法要 兼
墓地納骨(物故者) 追弔法要
大阪教区第十二組
清澤寺前住職
澤田 秀丸 師
- 二十七日・宗祖聖人御逮夜
(午後二時)
- 二十八日・宗祖聖人御命日
(午後八時)

願力無窮に

ましませば

罪業深重も

おもからず

(法語カレンダーより)

編集後記

夏は暑い。その夏も年々暑くなっている今日この頃。家で涼しく過ごしていても熱中症になります。九月に入っても暑さが残ることでしょう。こまめな水分補給は欠かせない様にしてください。四季の中で、いつからか春秋が短くなつたと感じます。季節感を持つて過ごしてみようと思います。

堀河

六字城

発行

真宗大谷派(東本願寺)天満別院
大阪市北区東天満一丁目二六

電話 六三五一―三五三五

代表者 輪 番 長谷山法雄

「和讃のおはなし」

真宗大谷派 鍵役
宣心院 大谷 暢文

『現世利益和讃(五)』

南無阿弥陀佛をとふれば

梵天帝釈敬す

諸天善神ことごとく

よるひるつねにまもるなり


(南無阿弥陀佛とお念仏を称えるならば、梵天王や帝釈天がお念仏を称える私たちを敬つてくださり、さらに多くの天神や善神がことごとく、昼夜を問わず護つてくださるのです。)

このご和讃は、三界内の人の護念の利益を詠ったものです。三界とは、欲界・色界・無色界のことを言います。私たちの属している世界は欲界です。欲望にとらわれた者たちが住む世界です。そんな世界に住む私たちがさえ、お念仏を称えたならば、梵天王や帝釈天が敬つてくださるといふのです。これは『金光明経』という経典に説かれています。その『金光明経』に「梵王帝釈主、龍王緊那羅、および金翅鳥王、阿蘇羅天衆、かくのごとき天神たち、ならびにその眷属を將いて、みなこの人を護つて昼夜離れず」とあります。

梵天王は三界のうち色界の初禅天という世界を治めている王です。帝釈天は三界のうちの欲界の忉利天を司る王です。いわばそれぞれの世界の最高の神といえるでしょう。その最高の神が、三界の中で最も低い世界とされる欲界に住む私たちを、お念仏を称えたというだけで敬つてくださるといふことは一体どういふことなのでしょうか。梵天王や帝釈天が敬つてくださる対

象は、欲界に住む素のままの私たちがはありませぬ。欲界に暮らしながら「南無阿弥陀仏」と称える私たちを敬つてくださるのです。つまり「南無阿弥陀仏」こそが敬いの対象なのです。「南無阿弥陀仏」とは阿弥陀さまそのものです。ガンジス河の砂の数ほどおられる仏さまの中から、梵天王や帝釈天が阿弥陀さまを選ばれました。その理由は、他の仏さま方が見向きもされない罪悪深重の私たちを漏らさず救つてくださることにあります。それほど罪悪深重の凡夫を救うことは至難の技なのです。それをされる阿弥陀さまに対する敬いの心が、「南無阿弥陀仏」とお念仏を称える私たちに向けられたのでしよう。だからこそ、それに続く多くの天神や善神が、ことごとく私たちをすることを昼夜を問わず護つてくださるのです。これもまた阿弥陀さまの偉大さをうかがう証でもありますし、また欲界に住む私たちが、多くのお力によって支えられているということもわかるのではないのでしょうか。

霊園・墓石



藝太田石材店

本社 〒536-0001
本店 大阪市城東区古市1丁目23番20号
〒530-0042
大阪市北区天満橋1丁目2番18
TEL 06-6930-5075
0120-30-5075
FAX 06-6930-5078

◆**暁天講座・孟蘭盆会法要**

去る八月四日（金）、五日（土）の午前六時三十分より暁天講座を開講いたしました。両日ともに大阪教区第十五組大長寺住職沼田和隆師により『本来の私』の講題のもとお話いただきました。

また十三日（日）は、午後一時半より孟蘭盆会法要が勤修され、法要後は大阪教区第十三組道德寺前住職入江健明師の法話があり、皆様熱心に聴聞されておられました。

当日は酷暑の中多数の方々のご参詣をいただきました。

◆**天満別院門徒会**

御正忌団体参拝のご案内

この度、真宗本廟では来る十一月二十一日（火）から二十八日（火）にかけて「御正忌報恩講」が厳修されます。

天満別院門徒会といたしましては、左記の日程で「御正忌報恩講」へ団体参拝を計画しております。

皆様お誘い合わせの上、是非ご参加くださいますようご案内いたします。

日時 二〇一七年十一月二十六日（日）

午前八時出発

参加費 お一人五千元

ご門徒の皆様には、同封しております。ご案内をご確認ください。

◆**秋季彼岸会並総永代経法要**

兼墓地納骨（物故者）
追弔法要

今月二十日から彼岸の入りとなります。天満別院では左記の通り、秋季彼岸会並総永代経法要兼墓地納骨（物故者）追弔法要を勤修いたします。

日時 九月二十四日（日）

午後一時半より

法話

大阪教区第十二組
清澤寺前住職
澤田 秀丸 師

◆**報恩講準備のお願い**

九月二十九日（金）午後一時より報恩講前の境内・仏間・和室の清掃、のぼり旗の設置等の作業を行います。門徒会の皆様のご参加をお願い申し上げます。

◆**天満別院報恩講のご案内**

左記の通り天満別院報恩講を厳修いたします。

十月三日（火）

・初速夜
法話
大阪府大阪市
茨田 通俊 師

十月四日（水）

・晨朝
日中
婦人部報恩講
御伝鈔拝読
（午前七時）
（午前十時）

十月五日（木）

・結願速夜
法話
大阪府大阪市
茨田 通俊 師
（午後一時半）
・報徳会
（午前十一時）
・結願日中
法話
大阪府大阪市
茨田 通俊 師
（午後一時半）
・結願早朝
（午前七時）

輪番雑感

「私はすぐ私以外のものになりたがって自分を忘れるあなた自身であればよい」
（平野修）

私は他とくらべて自分はある人より優れている。或いは劣っている。自分をよいつ時は優越感を持ち、劣っている時は劣等感を持つて落ち込む。あの人のようになつたらいいな、またあの人のようにはなりたくないと思つたりする。これは自身があるべき位置に立っていないからである。相手しだいで振り回されて右往左往して落ち着くところのない自己忘却のすがたである。仏法に遇うとは自己忘却の自身に気づかされ、自身のあるべき相の確認ではないでしょうか。自身を忘れてはいる私に、仏様は常人のたれにありませぬ。自己とは何ぞやという課題をきくことにより少々なりとも明らかになることで、自己回帰（復）ができていくのではないかと思います。あの人のようになつたらではなく私は私でよかつた私になるのです。私は私以外の何者にもなれませぬ。なる必要もありません。私は私で

充分です。それで丁度よい私です。

『良寛作』実は現代詩の見出しで、平成十四年三月三十日付（朝日新聞）に記載された石川県野々市町常讚寺藤場美津路さんの詩「仏様のことば（丁度よい）」を思い出す。「お前は前丁度よい 顔も体も名前も姓もお前にそれは丁度よい 貧も富も親も子も 息子の嫁もその孫も それはお前に丁度よい 幸も不幸もよろこびも 悲しみさえも丁度よい 歩いたお前の人生は 悪くもなければ良くもない お前にとって丁度よい 地獄へ行こうと極楽へ行こうと 行つたところが丁度よい うぬぼれる要もなく卑下する要もない 上もなければ下もない 死ぬ月日さえも丁度よい 仏様と二人連れの人生 丁度よいのだと聞こえた時 憶念の信が生まれます 南無阿彌陀仏」

藤場さんは「間違われた良寛様も苦笑なされておられるのでは。この詩は自己否定の苦悩の中に聞こえた仏様の慈愛の言葉です。安易な現状肯定ではありません。誤った理解をされないようお願いします」と話しています。